

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4091300030		
法人名	サンコーケアライフ株式会社		
事業所名	グループホームすずらん		
所在地	福岡市城南区樋井川1丁目7番38 (電話) 092-873-8354		
自己評価作成日	令和 3 年 5 月 12 日	評価結果確定日	令和 3 年 8 月 3 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

入居者様に笑顔で元気に過ごしていただけるように、福岡事業所全体での三大イベントや、すずらんでの季節にちなんだ外出レクや毎月地域の方との交流など活発に行っていましたが、コロナの流行によりできない状況が続いています。季節感を感じていただけるような室内装飾を行っているほか、みんなで出来るレクに限られる為、その方にあったコミュニケーションや役割をもって活動してもらうなどの工夫で対応しています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kai gokensaku.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会
所在地	福岡県春日市原町3-1-7
訪問調査日	令和 3 年 6 月 11 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は閑静な住宅街の中にあり、近くにある川沿いの桜並木は舗装もされており住民の憩いの場となっている。コンビニエンスストアやスーパーも桜並木散歩コース道中にあり買い物が支援しやすい。コロナ禍においてあらゆる地域交流や行事が中止・縮小している中、感染症対策を取りながら利用者や家族の精神的ケアの部分を含めて散歩や買い物、ドライブ、窓越し面会などを実施している。看取り介護に関して指針に沿った対応、実績を積み重ねていることで利用者家族も安心・信頼して終末期を迎えることができている。スタッフ同士の仲が良く何でも相談できる間柄を築いていることが利用者の笑顔につながっている。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関掲示板やリビングに掲示し理念に基づいた介護ができていくか日々確認できるようにしている。	管理者と職員は入職時や月1回の職員会議で事業所の理念に沿った運営ができていくか確認している。気が付があればその場で修正し再度会議で振り返っている。理念はフロアにも掲示しており利用者や家族へもわかりやすい。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月地域のふれあいサロンへの参加や、町内のお祭り、餅つき、幼稚園行事の見学、町内掃除の参加など行っていたが、コロナ過によりできていない。	コロナ禍において地域活動や行事での交流は自粛、中止が相次いでいるが、近隣の住民とは機会があれば声をかけ、関わりを保っている。今後も感染症対策を継続しながらできるところから実践する予定である。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域行事への参加や運営推進会議には地域の方も必ず参加していただき生活状況をお話してきていた。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族や地域の方、包括支援センター、区、市役所の方に参加いただき、意見交換の場となっていたが現在は中止の為、すずらんの活動様子など報告書を作成し配布している。	運営推進会議は利用者家族、行政職員、民生委員、町内住民、福祉事業関係者（保育所）の参加がある。多人数で会議開催が困難な場合でも事業所の入居状況、研修勉強会、各委員会活動状況などを文書でまとめFAXにて報告している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議が中止となっている為、ご家族からの質問や、わからないことがあれば担当部署に直接電話し問題解決に協力頂いている。	市町村との連携に関して、日頃から窓口や電話で行っており、運営や制度に関する相談、アドバイスを受けている。行政からは虐待事例の受け入れ相談があり緊急的に受け入れる等、相互に関係性を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月、身体拘束廃止委員会を中心に施設会議を行い拘束をしないケアについて話し合いをしている。社外研修があれば必ず参加もしている。	ベッド転落の可能性が高い利用者に関して、家族からの強い要望もあり、壁と柵2本で囲っている事例がある。実施にあたり、決まりに沿って手続きをし、毎月状況確認と見直しを行い、家族へ説明し、同意を得ている。拘束解除を目標とし、引き続き検討していく予定である。	家族からの強い要望もあるが、柵を乗り越えることでかえって大怪我につながるケースも想定できる。リスクを常に考えつつ、環境や支援方法の見直しを継続し、家族に対して身体拘束を行うことの弊害についての理解を促し、早期の目標達成を期待する。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	社内での勉強会や外部研修へ参加している。入居者の状態の把握や職員の体調管理を含め、ゆとりのある介護できるように注意している。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会や外部研修への参加。ご家族が面会に来られた時に見て頂けるよう、玄関掲示板にパンフレットをおいている。	玄関にパンフレットを準備しており、制度について利用者家族からの問い合わせがあれば随時支援できる。入居申し込みの段階で問い合わせもあり、不安がないよう対応している。一部の職員が外部研修会に参加し、作成した報告書を全職員が回覧することで伝達研修とし、内容を理解している。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居が決定後、契約に必要な書類をお渡しし期間に余裕を作りゆっくり見ていただき契約までに質問、疑問があれば説明をして納得いただいた後の契約をしている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者からの意見はその都度対応している。ご家族からのご意見ご要望などあれば、支援に反映できるよう申し送りし全職員へ周知している。	職員は日頃から利用者、家族の生活に対する意向把握に努めており、教会への外出、買い物支援につなげている。精神疾患のある利用者の要望に関しても協議し、居室環境について本人の状況に合わせた支援を実践し、精神面の安定につながった。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行う職員会議で提案や意見交換できるようにしている。参加できない職員からも個別に意見をもらい会議での意見をまとめ事業所代表には業務会議にて報告している。	管理者、職員共にコミュニケーションを大切にするという意識が強く、働きやすい環境を作っている。各々の意見は会議だけではなく普段から言いやすい。業務の流れや入浴、排泄に関する個別支援方法もスムーズに決定され、利用者や家族へ還元されている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	外部研修は積極的に参加しており、勤務扱いで、参加費は施設負担としている。また、残業の軽減や有休消化など、働きやすい職場になるように努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員募集、採用の際に、性別や年齢、国籍を不採用の条件にはしていない。職員の能力が発揮できるように考慮している。	介護支援専門員受験、認知症実践者研修や介護福祉士実務者研修の受講などキャリアを見据えた職場作りに努めている。会社グループ内の人事異動もあり適材適所にて自己実現ができるよう配慮している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権研修には必ず参加している。参加後社内勉強会を行ない職員全員でも話し合い意識を高めることに努めている。	認知症高齢者、子どもを主体に、虐待も含め人権全般に関する内容の外部研修を受講している。管理者は、人権を大切にしたい支援につながるよう職員への伝達研修及び日頃から不適切な対応がないか観察指導している。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	働きやすい職場環境を保つため、日ごろからヒヤリングし発言しやすいように声をかけを心がけ、より良いケアを行うために工夫やアイデアがあれば実践して職員の育成に努めている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修参加での交流の機会を作り、情報交換ができるよう努めている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前面談時に要望等を確認、入居後も会話の中からご本人の希望や要望を聞き少しでも希望に沿えるように工夫することで安心して生活できる環境を作り、早く信頼関係を築けるように努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の意向や希望を伺い入居後の不安の軽減やご意向に添った支援が行えるよう努めている。面会に来られないご家族には電話にて様子を報告している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まで必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族、ご本人の生活状況をしっかりと聞き、入居後の様子観察をしっかりと行い必要な支援ができるよう務めている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	アットホームな雰囲気を大事にし、それぞれが出来ること得意なことを役割としてしていただくことで、みんなで支えあって生活していると感じていただけるよう努めている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人とご家族の関係を第一に考えながら、本人へのより良い支援ができるよう、状態を報告しいつでも相談していただけるよう努めている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ過により制限のある中ではあるが、友人・知人の面会、外出、電話での会話等楽しい時間を過ごせるよう努めている。	職員は利用者が入居後もそれまでの馴染みの関係性が途切れないよう生活歴を把握している。要望も含め日課や習慣を洗い出し、実践につなげている。現在はリモートでの礼拝であるが、教会礼拝参加のための外出支援、墓参り、自宅での散髪など継続できている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性やその日の状態を把握したうえで本人のペースに合わせ無理なく関わられるよう努めている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後に連絡やご相談があれば対応するように努めている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の会話やコミュニケーションをとることにより思いや意向の把握に努めている。	日々の関わりの中で利用者とコミュニケーションをとり、利用者との会話を大切に、希望や意向を聞くように努めている。意思疎通の困難な利用者には生活歴や家族からの情報をもとに、利用者本位の立場で検討して、意向を把握すると共に利用者が安心できる暮らしの支援に結び付けている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に情報提供を行ってもらいフェースシートを作成することにより、これまでの生活歴等の把握に努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	気づきや観察店などを記録し、申し送りや連絡ノートを活用し情報の共有、現状把握に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族からの意向確認、主治医を含めカンファレンスを行い基本的には3ヶ月毎に見直し新介護計画を作成してご家族に説明ご同意をいただいている。	介護計画作成担当者がアセスメントを通して本人や家族、医師等の意見を取り入れ、計画書の素案を作り、ケアカンファレンスで具体的な計画を作成している。モニタリングを3か月毎に行って、介護計画を見直ししており、利用者の状態に応じて臨機応変に見直ししている。作成した介護計画は本人・家族に説明を行い、署名をもらっている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	小さな変化や気づきをしっかりと記録に残すようにしている。また、その中で重要性のあるものについては赤字で残し、情報の共有を行い介護計画に反映させている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	レクリエーションや行事を通して季節を感じていただける内容のものを提供。日々の会話から入居者の要望を聞き取り、その時にできるサービスがあれば支援している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルスにより地域の行事等が中止になり交流できない状態が続いている。日頃の散歩等でお会いした方々と挨拶等で顔なじみを作れるよう支援している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時にかかりつけ医を本人やご家族と相談し決めている。また、ご家族とかかりつけ医が直設話をする機会を作り関係を築けている。受診時には情報提供行い必要な指示を受けている。	入居後、利用者や家族の意向を尊重してかかりつけ医を決め、受診を支援している。連携するクリニックへの受診には、殆ど職員が同行しており、受診結果等は記録に残し、全職員が共有出来る様にしている。また、家族には主に電話で連絡するようにしている。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一の訪問看護による健康管理を行っている。本人の訴えや日々の些細な変化など報告・相談を行うことで重要化にならないよう努めている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は職員が必ず付添い、早期退院につながる様に情報の提供を行っている。入院中は現状把握の為連絡を入れている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に対して説明を行っている。重度化については契約時に同意書をいただいている。終末期においては本人の想いを汲みご家族、他職種ともに話し合い同意を得たうえで方針を共有し支援している。	重度化や終末期のあり方について、事業所の対応方針が明文化されており、利用者や家族には利用開始時や必要に応じて説明をし同意書を貰っている。重度化の変化に応じて、利用者や家族の意向を尊重しつつ、繰り返し話し合いを重ねて、介護支援計画をたて、全職員で方針や支援方法を共有し取り組んでいる。看取りの実績も多い。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会や訓練を定期的に行う事により異常や急変に対応できるようになっている。緊急時の連絡先や対応マニュアル等目につきやすいところに置いている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練。隣接施設と合同で職員、入居者様、近隣の方へ参加の呼びかけを実施している。誘導・通報手順や水消火器での練習、火災報知器、直通の消防電話機の定期点検を行っている。ユニットごとに食料の備蓄もしている。	事業所の災害マニュアルが整備されており、消防署の協力を得て、隣接する法人と合同の避難訓練や、消火器の使用や通報方法の訓練を実施している。地域の方にも参加してもらっているが、夜間を想定した訓練は行っていない。非常用備蓄は事業所内にリスト化された食料や飲料水があり、備品等も準備されている。	不測の災害に対し、昼夜を通じた備えの検討と共に、夜間を想定した避難訓練を今後期待する。
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の人権の尊重する介護を継続する為、定期的に勉強会で振り返りを行っている。特に更衣や排泄介助時は細心の注意を払うよう心がけている。また、プライバシーに関しての情報を漏らさないよう、雇用契約時に説明し、誓約をここなっている。	排泄への誘導には小声で「行きませんか？」と声かけをする等、利用者の気持ちを配慮した声掛けを行っている。特に排泄時や入浴時は各利用者のプライバシーを配慮した支援を心掛けており、新人研修や年に一度の内部研修を通して確認しあっている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	たくさん会話することを心がけ、表情や会話からその方向をが望んでいるのかを発見できるように注意深く観察し本人への確認を行うとともに、自己決定ができるよう支援している。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調や、その日の気分を尊重し、それぞれがご自分のペースで過ごしていただける様に努めている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝の整容や季節に合わせた服装の支援や、2か月おきの訪問理美容の利用等を行っている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食は職員と一緒に食べている。アレルギーや好き嫌いなど、できるだけ要望に応えるように、給食会議でも話し合いをしている。おやつ作りや台拭き、お茶くみなどできる範囲でお手伝いをお願いするようにしている。毎月1度、旬の物を使ったメニューや、地方の郷土料理など提供している。	食事は外部委託であるが、職員は利用者と同じ食事を食べ、食事内容の把握に努めている。また委託業者と給食会議を月に一度行い、利用者の嗜好や身体機能に合わせた代替品の検討やソフト食の提供の他、郷土料理も献立される等、工夫がなされている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	咀嚼力、嚥下状態に応じて、キザミ食、ソフト食、水分にはとろみ剤の使用し一日の摂取量の把握に努めている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、介助、義歯の洗浄行っている。毎月、協力医療機関の歯科衛生士から講習を受け毎日の口腔内清潔保持に努めている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄状態を把握し、声掛け支援や立位困難な入居者の方も日中は二人介助にてトイレでの排泄を支援し失禁が減る様に努めている。	職員は独歩、車椅子利用に関わらず、利用者が行きたいときにトイレに行けるようにしている。利用者の表情から誘導したり、あるいは排泄パターンを把握して声掛けを行っている。また、紙おむつやパットに頼ることなく、可能な限りトイレで排泄できるよう支援している。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	可能な範囲での運動や水分不足を補うように飲み物の工夫や水分補給ゼリーを使用し個別の対応している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	予定は組んでいるが、その日の気分や状態により、中止や、時間変更など対応している。	入浴は基本的に週2回としているが、入浴日以外の入浴にも対応している。入浴方法も利用者の好みに応じて、夕方の入浴にしたり、入浴剤を使用したりする等、気持ちよく入浴ができるよう支援している。体調で入浴が困難な場合は、足浴や清拭、ドライシャンプーで無理にならないように対応している。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	不規則なリズムにならない範囲の中で、今までの生活習慣を理解し希望に沿った対応を心がけている。居室は個人のつかい慣れた物に囲まれながら安心できる場所である様に努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期薬は内容等について主治医の指示の元管理し服薬介助を行っている。また、誤薬防止のためマニュアルを掲示しダブルチェック、声出し確認を徹底している。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家族からの情報や生活歴、施設で本人が過ごす日常で新たに得意なこと楽しみなこと見しながら日々の生活に取り入れながら支援している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ過により外出や地域のふれあいサロンへの参加もできない状態だが、その中でも人の少ない時間帯の買い物や施設周辺のお散歩はかかさず行っている。	利用者の希望や体調に応じて、施設周辺の散歩やコンビニエンスストアの買い物に出かけている。車椅子の利用者も含め例年家族の協力のもと外食を行っていたが、現在はコロナ禍により控えている。しかし、近隣の散歩やドライブなど外出支援を行っている。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を本人が所持されている方もおられる。所持管理できない方は預り金より自分の好きな物を近隣スーパーで支払っていた。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人からお花のプレゼントや荷物など届いたときにはお礼の電話を支援している。個人の携帯電話を利用されているかたもある。現在は手紙を頼まれる方はいないが以前はお手伝いしたこともある。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間を利用しやすいように配慮している。時に模様替えも行い季節感を感じられるように、飾り物などを一緒に制作し一緒に飾りつけをしている。	リビング・食堂の壁面には、利用者と職員の手作りの季節感ある飾りや利用者の写真などがあり、会話が弾む場所となっている。また、所々に置かれたソファやカーテンで調整された窓からの日差しで、居心地よい空間となっている。トイレの場所を示す表示が多く、利用者が安心して移動、利用できるようにしている。	

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その日の体調や気分配慮し穏やかに過ごせる空間に座ってもらい、気の合う方向士楽しく会話ができるように気を配るようにしている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使い慣れたなじみの品々を持ってきていただくようお願いしている。仏壇も持ち込まれ毎日お茶屋ご飯を供えられ手を合わせておられる方もいる。	居室には本人が使い慣れた筆筒や飾り棚、テレビ、仏壇があり、趣味の用具や自宅で使用していた物が持ち込まれている。また、各利用者の思い出の写真や飾り物が飾ってあり、個性的で住み心地のよい居室になっている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日々身近で見守っている。出かけることを大切に考え時間がかかってもなるべくご自分で行えるように支援している。事故につながらないように、職員で気づきを共有しその都度工夫、改善を行っている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2/3くらいの
				③利用者の1/3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
			○	③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 21）	○	①ほぼ全ての家族と
				②家族の2／3くらいと
				③家族の1／3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 22）		①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
			○	④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）		①大いに増えている
				②少しずつ増えている
			○	③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、生き生きと働いている。 （参考項目：11, 12）	○	①ほぼ全ての職員が
				②職員の2／3くらいが
				③職員の1／3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が
				②家族等の2／3くらいが
				③家族等の1／3くらいが
				④ほとんどいない

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	リビングに『理念』を貼付。見える箇所に配置している。職員間でその理念を共有し、心がけている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナが発生し、交流困難になった。季節感が感じられるような努力はしている。レイアウトや写真撮影など。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2か月に1回、運営推進会議。新型コロナの影響につき、情報交換はFAXなどで共有している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	FAXなどで情報交換を行なっている。意見や情報がある際には、サービス向上に活かすようにしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	確認事項がある時には連絡している。緊急措置の連携。該当者の身の安全を確保している。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員を中心に勉強会を行ない確認を行なっている。毎月、ケアについて話し合うよう努めている。廃止に向け考える場を設けている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	外部研修や勉強会を定期的に行っており、予防、防止に努めている		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	相談があれば助言や説明ができるよう努めている		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に不安や疑問を伺い説明を行っている、また疑問などあればいつでも伺うことをお伝えしている		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置している。面会制限もあり電話での意見や要望を伺い運営に反映させている		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送りや、職員会議で情報、意見の交換をしている。管理者は提案意見を聞き運営に反映している		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の健康状態、勤務状態を把握するようにしている。向上心の評価や処遇改善を図っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	老若男女問わず採用している。本人の能力が発揮できやりがいをもって働けるよう配慮し、社旗貢献や自己実現の権利が保障されるよう心がけている		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	外部研修への参加や社内での勉強会開催し利用者主体で考えるように努めている		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員のマニュアルを用意いつでも見れるようにしている為、中堅以上の職員も再確認できる。法人内外の研修を受ける機会の確保も行っており参加を促している		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人内にグループホームがある為定期会議などでの情報交換や外部研修での交流を行っている		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前、入居後とご本人の困っている事、手伝ってほしいことなど傾聴し安心信頼を得るための関係づくりに努めている		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族との面談、電話での相談、不安なことや要望など伺い、話しやすい環境づくりに努めている		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを十分に行い、必要な支援、援助ができるよう見極めて対応に努めている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自己決定を優先とし安心した生活や良好な仲間づくりの関係を築けるよう努めている		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	相談支援や情報交換をこまめに行うよう努めている		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	交友関係が途切れないよう支援、フォローを行っている。現在の多くはコロナにより電話での交流となっている		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者への関わりが偏らないように配慮し孤立される方がいないように努めている。一緒に声掛けをしていただき支えあえる関係づくりに努めている		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	連絡相談があれば、関係性を大事にし相談や支援に努めている		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	出来る限り本人の意思決定と意向を尊重し援助支援に努めている		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や生活習慣の把握に努めサービスに反映させている		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人の1日の過ごし方や心身の状態、有する力などの現状把握に努め、小さな変化にきずけるように努めている		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングを行い状態や新たな課題の抽出、関係者と話し合い現状に沿った介護計画を作成している		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の状態、変化を記録し、情報を共有して介護計画の見直しを行っている		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族の状況等ニーズに対応し楽しく過ごしていただけるような環境づくり。柔軟な支援に取り組んでいる		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ過により、地域の行事は不参加となっているが民生員、包括支援センター委員との情報交換は継続している		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医の確認し要望に沿いようとしている。かかりつけ医への無料同行支援やそれ以外の受診については保険外サービスになる為、ご家族に了承を得てから対応としている。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護により健康観察を行い、かかりつけ医と訪問看護、施設と連携して情報の共有が出来ている		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	ソーシャルワーカーやご家族と意向や状態の情報の共有。退院時にはカンファレンスの参加でアセスメントをとり支援内容を見直し。かかりつけ医への状態報告。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に説明し同意書をいただいている。ご家族、主治医と連携し住み慣れた施設での生活が継続できるよう支援する体制を整えている		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に適切な対応ができるよう見えるところにマニュアルを設置している。定期的に研修や勉強会を行っている		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、隣接の有料ホームと合同で職員全員が実地できるよう避難訓練実施している。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	外部研修への参加や社内での勉強会を行ない、尊厳とプライバシー保護に努めている		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定の困難な方が多いためご家族からの情報や日常生活での様子等観察し寄り添い傾聴し思いや希望をくみ取る様努めている		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の心身・健康状態などに配慮しご本人にあったペースで過ごしていただけるようにしている		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の整容支援や定期的な訪問理美容の利用等希望に沿えるよう努めている		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎月1回季節感を味わえるのメニューや地方の郷土料理の提供や一緒におやつ作りや食事の準備など一緒に行っている		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算された食事。個々の状態に合わせて普通食・キザミ食・ミキサー食・ソフト食など提供している。水分摂取量の把握。水分ゼリーなども取り入れている		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎月口腔指導を受け毎食後口腔ケアを行っている。歯科訪問も受けている		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は立位不可の方にも二人介助にてトイレに誘導してる。排泄状態の把握と記録		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動や水分補給など心がけている		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	体調やご本人の意思を伺い行っている。入浴できない場合は足浴、手浴、清拭やドライシャンプーでの対応をしている		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調やお気持ちを聞き時間を問わず休息していただいている		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の服薬表をすぐ確認できるようにしている。変更などあれば記録、申し送りし職員全員が情報の共有をしている。状態に応じて主治医に報告し指示を仰ぐようにしている		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々にお好きなことや得意なこと、楽しみや役割を職員で話し合いその方に合った支援をしている		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お散歩やお買い物、お墓参りや外食、教会への礼拝など要望に応じて対応している		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分でお金を持ちたいと希望の場合はご家族にご相談して行っている。自己管理のできない方には買い物支援を行っている		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたいときにはかけてもらっている。手紙の受け取り、返事の代筆も行っている		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月、季節の花や室内装飾を変えている。装飾は一緒に作りレクリエーションのひとつになっている		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々の性格や相性を考慮し椅子やソファの配置に工夫をしている		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や思い出の品などそれぞれ持って入居されている。気分転換に時々配置換えも行っている		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自由に安全に行動できるように危険な場所は施錠し見守りをおこなっている		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2/3くらいの
				③利用者の1/3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
			○	③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 21）	○	①ほぼ全ての家族と
				②家族の2／3くらいと
				③家族の1／3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 22）		①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
			○	④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）		①大いに増えている
				②少しずつ増えている
			○	③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、生き生きと働いている。 （参考項目：11, 12）	○	①ほぼ全ての職員が
				②職員の2／3くらいが
				③職員の1／3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が
				②家族等の2／3くらいが
				③家族等の1／3くらいが
				④ほとんどいない